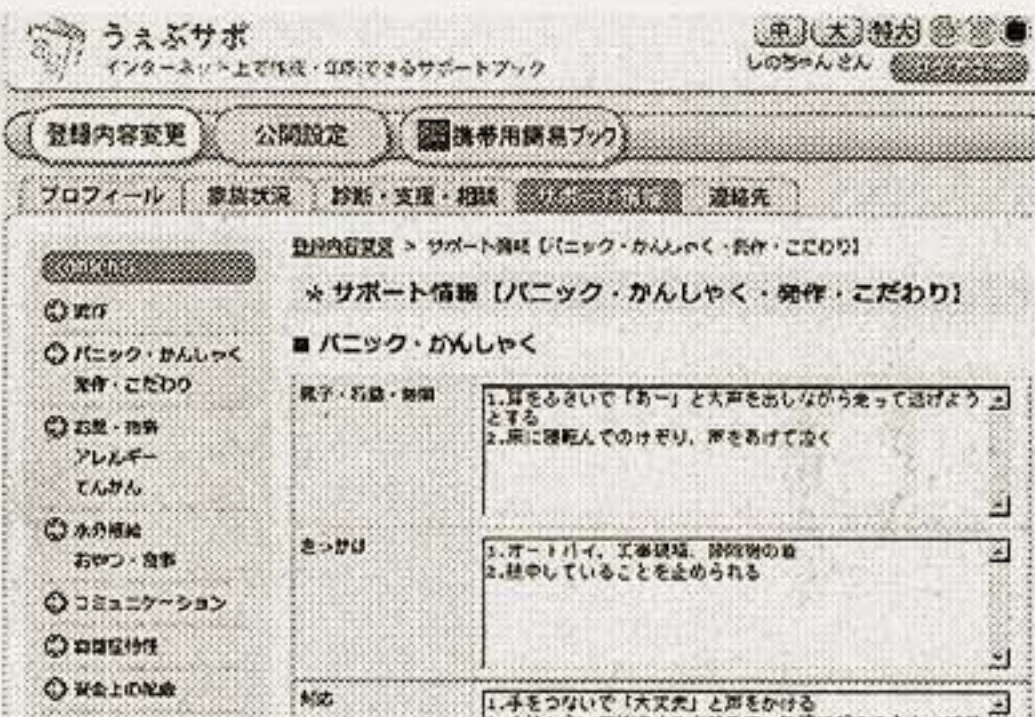


# パニック時対応や介助法サポ。ポート



うえぶサポの画面(サンプル)

## ネットサービス公開中

発達障害のある人を支える方法を、周りの教師ら支援者がパソコンなどから手軽に確認できるインターネット上のサービスを大阪市の会社が開発、無料で公開している。

自閉症など発達障害のある人は突然、パニックを起こして周囲から孤立してしまうことがある。こうした事態を防ぐため、本人の受診状況やパニックの際に必要なサポート内容などを周囲に知らせる

ための冊子「サポートブック」があり、これまでも利用されてきた。

今回、システム開発会社の奥進システムが作ったのが、電子版のサポートブック「うえぶサポ」だ。

パニック時の周囲の対応方法やトイレでの介助の仕方など、具体的な状況ごとに記入。最大でA4判32頁相当の情報を、携帯電話からでも手軽に更新したり確認したりできる。

家族は、IDとパスワードで

アクセスが可能。支援者に特定のアドレスとパスワードを伝えれば、必要な情報を閲覧してもらうことができる。どこまで情報を公開するかの設定も可能だ。同社は従業員6人のうち4人は障害者を雇用しており、「困った立場に陥りやすい人に何ができるか考えるようになった」（奥協学社長）のが開発のきっかけだったという。

うえぶサポのホームページ（<http://support-book.jp/>）から登録できる。（高橋健次郎）